

25年9月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 8月20日～ 9月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		25/9月	10月	11月
伐採動向	スギ	16.7	16.7	16.7
	ヒノキ	0.0	16.7	16.7
	カラマツ	33.3	33.3	33.3
	エゾ・トド	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
出荷・販売動向	スギ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 16.7	16.7	16.7
	カラマツ	33.3	50.0	50.0
	エゾ・トド	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
手持立木 在庫動向	スギ	10.0	20.0	20.0
	ヒノキ	0.0	25.0	25.0
	カラマツ	16.7	16.7	16.7
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0

伐採動向は、スギ、カラマツはプラス基調で推移、ヒノキは9月のゼロから10, 11月はプラスに、エゾ・トドは大きなマイナス基調で推移。
出荷・販売は、スギは横ばいで推移、カラマツはプラス基調で推移、ヒノキは9月のマイナスから10, 11月はプラスに、エゾ・トドは大きなマイナス基調で推移。
手持立木在庫は、スギはプラス基調で推移、ヒノキは9月のゼロから10, 11月はプラスに、カラマツはプラス基調、エゾ・トドは大きなプラス基調で推移。

モニターからのコメント

(伐採動向)

・国有林カラマツ保育間伐請負のためトドマツ伐採は休止、カラマツは増加傾向。・国有林の生産請負実施中で民有林伐採は遅れ。・スギ、ヒノキとも間伐。・大雨による道路被害で出材に影響。スギ、カラマツ丸太価格は保合。

(出材・販売動向)

・トドマツは先月までに出材した素材の販売が完了し、減少の見通し、カラマツは国有林のシステム販売による間伐物件が増加。。

(手持ち立木在庫)

・トドマツは国有林の公売物件で適地あれば購入予定、カラマツは在庫あるので横ばい。・立木購入中で在庫は増加。・スギ、ヒノキとも在庫はゼロ。・カラマツ不足気味積極的に買入れ。